

北海道

国際理解教育
研究協議会

会報

第17号

会長 磯貝 登
事務局長 大泉 弘
発行 1991
2・10

国際理解教育の日常化に向けて

北海道国際理解教育研究協議会

副会長 福島 清治
(札幌市立伏見中学校長)

平成2年はここ10数年ではかつてないほどの目まぐるしい国内外の変化を経験しました。即ち、目を国外に転ずると、ソ連のパレストロイカ、バルト三国問題、東欧の民主化とそれに伴う多くの混乱、そして10月4日に全世界の注目の中で行われた東西ドイツの統一はそのハイライトと言えるでしょう。しかし、中東におけるイラクのクウェート侵攻があり、全世界は好むと好まざるとにかかわらずこの事件の影響を受けています。就中、日本はその大部分を中東の石油に依存していることから直接的にこの侵攻の成行きに、日常生活にも響きが出始めています。アメリカとの関係から日本もその対策に頭を痛めています。国連主義の立場と人道的な立場等々複雑な国際関係の中で苦慮している現実に、早く湾岸戦争の終結を願うことしきりです。

さて、日本国内に目を向けると、依然として「国際化」の叫び声は高いが、国際化とは何なのか、どういう状態が国際化なのかが今ひとつわからないでいます。そして、外国人労働者の非人道的扱い、東南アジア系の外国人の差別、公務員等への外国人就職の締め出し、など、これから解決されなければならない問題が山積しています。

このような世界的な激動の中で、今年の本研究会の動きは目覚ましいものがあったとおもいます。先ず、網走市で11月に開催され第11回北海道国際理解教育研究大会は参加者が450名を超える熱気溢れた大会でした。小・中・高で公開された授業は質が高く参観者は一様に驚嘆の声を隠しませんでした。その後、「各校種別の国際理解教育をどう進めるか」「地域における国際理解教育をどう進めるか」といった主題を3分科会に分れて協議しましたが、学校

教育や地域により密着した親善交流、あるいは理解教育について実践や意見の交流がなされました。またNHKニュースセンター9時でお馴染みの平野次郎氏の講演も、グローバルな視野から物事を考えるにことについて有益な示唆を与えてくれました。ともあれ、この参加者数にみるように、大会を準備、運営された方々の並なみならぬ努力とともに、網走管内の先生方の国際理解教育にかけの関心の深さと各市町村行政の方々の高い支援の姿勢を知ることができました。渡島国際理解教育研究会は毎年着実な研究実践を積み上げられ、その成果が確実に還元されておりますし、同時に各地域の研究会、団体とも協力して研究を推進に当たっていることは特筆に値するものがあります。

胆振では、白老町立虎杖浜中学校が胆振教育局指定の国際理解教育公開研を実施しましたが、地域のnative speakerのボランティアを町教委が積極的に支援し、学校ぐるみで「虎中タイム」として、ゆとりの時間の有効利用の中から国際理解教育を進めているのは、まさに、これから各地の特色を生かした地方の時代の先駆けとなるものと思われます。また、札幌では、東園小学校を会場にアラスカの姉妹校の先生・生徒それに北海道インターナショナルスクールの生徒を交えた「生活科」を指向する合同授業が行われ、参会者に多くの示唆を与えました。その他、留萌、帯広、釧路、石狩からも親善交流や国際理解教育の実践が報ぜられ、年々、道民の関心も高まりつつあることは喜ばしいこととあります。

しかし、国際理解教育の真の目的は何かを常に問い返しなが、その内容、方法が吟味されなければならないと考えます。即ち、「学校教育における国際理解教育の基本は身近な集団活動を通して相互の人格を重んじ、人間として尊重しあう児童・生徒の育成であり、よりよき日本人であろうとする態度の育成であると考えたら、国際理解教育とはある特定のねらいをもった、特殊な力量を要する特異な教育分野ではなく、全教職員によって進められる教育であることに心すべきものであり、真の平和を願う、人類共生の教育であると思います。

その意味からも本研究協議会会員の一層の努力と発展を切に願うものであります。



平成3年度在外教育施設派遣教師
激励会のお知らせ

節分もすぎ さすがの寒さも和らいで日中の日の暖かさにも春の足音を感じるようになりましたが、会員の皆様におかれましては、年度末の諸行事等でご多忙のことと拝察致します。

さて、平成3年度「在外教育施設派遣教員」が別紙のように内定したとの連絡を道教委より受け取りました。来年度は、16名の派遣です。つきましては、恒例の「在外教育施設派遣教員激励会」を、本会主催、北海道教育委員会の後援によりまして下記の通り開催致します。

卒業式や進路指導など年度末業務が迫っていて大変でしょうが、かってご自分が派遣された時のことを思い出して、派遣者への激励や助言に、一人でも多くの会員に出席していただきたくご案内申し上げる次第です。特にかって自分が勤務したと同じ学校に行かれる方がいらっしゃる場合には、是非とも出席していただいて詳しい助言を差し上げて欲しいと思います。

なおどうしても参加できない方は、別紙の内定者一覧を見て「心得や準備等で重要なこと」を電話か手紙で助言していただければ幸甚です。

記

1. 日時 平成3年3月11日(月)午後6時30分～8時30分
2. 会場 ホテルアカシア 3F「はまなすの間」
住所：札幌市中央区南12条西1丁目
電話：011-521-5211
3. 会費 6000円 (今年も、激励会後の「交流会」はしません)
4. 旅費 自己負担
5. 宿泊費 自己負担
互助会の割引利用券(事務官からもらって直接フロントに提出)を使うとお一人、朝食(800円)込みで、2000円位です。

アカシアには、3月4日までの期限で5室(洋室、ツインを空けてもらって有りますので、アカシアに泊まれる方は至急電話で申し込んで下さい。申し込む際「海外派遣の激励会に参加する者」であることを申し添えて下さい。

4日を過ぎますと、事務局でキープしている分については解除しますが、部屋が空いている場合もありますので、一度アカシアに問い合わせられることをお勧めします。

なお5室は、新派遣者の宿泊希望も含めた数です。もし同室を希望される場合は、お互いに連絡を取り合ってください。

6. 申込み 激励会の申し込みは、3月4日(月)まで葉書(住所、氏名、学校名、電話、派遣年度と派遣学校名を記入)で申し込んで下さい。(間に合わない場合は電話でも可)
なお4日以降でキャンセルされる場合は必ずお知らせ下さい。

連絡先 板垣 修
昼間：西部小学校 広島町島松284
☎ 011-376-2104
夜間：恵庭市恵み野西6丁目5-18
☎ 0123-36-3278

平成2年3月帰国教員（昭和62年度在外教育施設派遣）一覧

| 管内 | 現所属 (H2. 4. 1現在) | 職名 | 氏名 | 派遣先 | |
|----|---------------------|----|-------|----------------|----|
| | | | | 日本人学校 | 職名 |
| 石狩 | 札幌市立厚別中 | 教頭 | 中村 勝二 | オランダ アムステルダム | 教頭 |
| | 札幌市立桑園小 | 教諭 | 中村 淳 | フィリピン マニラ | 教諭 |
| | 石狩町立若葉小 | 教諭 | 清水 博 | フランス パリ | 教諭 |
| 渡島 | 戸井町立鎌歌小 | 教諭 | 板東 英明 | グアテマラ グアテマラ | 教諭 |
| | 八雲養護 | 教諭 | 佐藤 孝二 | 香港 香港 | 教諭 |
| 桧山 | 江差町立水堀中 | 校長 | 大島 安長 | ナイジェリア ラゴス | 校長 |
| 後志 | 余市町立旭中 | 校長 | 能登 政之 | ソ連 モスクワ | 校長 |
| | 小樽市立張碓小 | 教諭 | 高橋 悦男 | アメリカ ボストン(補) | 教諭 |
| 上川 | 旭川市立緑が丘中 | 教頭 | 高畑 秀興 | 香港 香港 | 教頭 |
| | 富良野市立扇山小 | 教諭 | 近藤 正 | 韓国 ソウル | 教諭 |
| | 上川町立上川中 | 教諭 | 藤原真由美 | ギリシャ アテネ | 教諭 |
| 網走 | 置戸町立置戸中 | 教頭 | 千葉 正義 | オーストラリア シドニー | 教頭 |
| | 遠軽町立南中 | 教諭 | 植松 人美 | チェコスロヴァキア プラハ | 教諭 |
| 胆振 | 苫小牧市立明倫中 | 教頭 | 六郷 隆義 | イギリス ロンドン | 教頭 |
| | 室蘭市立北辰中 | 教諭 | 齋地 和幸 | ソ連 モスクワ | 教諭 |
| 日高 | 三石町立三石小 | 教諭 | 梅木登喜雄 | メキシコ メキシコ | 教諭 |
| 十勝 | 芽室町立芽室西小 | 教頭 | 上平 忠義 | マレーシア クアラルンプール | 教頭 |
| | 音更町立東土幌小 | 教諭 | 舟越 洋二 | ペルー リマ | 教諭 |
| 釧路 | 標茶町立標茶小 | 教諭 | 戸松 栄 | オランダ アムステルダム | 教諭 |
| 根室 | 中標津町立広陵中 | 教諭 | 高橋 将 | アメリカ シカゴ | 教諭 |

平成3年度 在外教育施設派遣教員（管理職）内定候補者名簿

| 氏名 | 職名 | 派遣先 |
|------|----|--|
| 木下昌司 | 校長 | インドネシア・メダン日本人学校 (胆振教育局社会教育指導班主査) |
| 細見浩 | 校長 | 北京日本人学校 (中標津町立西竹小学校) |
| 大瀧勝 | 教頭 | アメリカ・デトロイト補習授業校 (札幌市立柏中学校) |
| 出淵護 | 教頭 | ブラジル・サンパウロ日本人学校 (北海道立教育研究所教育方法研究室長) |

派遣期間：校長 平成3年1月1日～平成6年3月31日
 教頭 平成3年4月1日 平成6年3月31日

平成3年度 在外教育施設派遣教員（教諭）内定候補者名簿

派遣期間：平成3年4月1日～平成6年3月31日

| 管内 | 所 属 | 職名 | 氏 名 | 派遣先 | |
|----|---------|----|-------|-------------------|----|
| | | | | 日 本 人 学 校 | 職名 |
| 石狩 | 札幌市立南郷小 | 教諭 | 吉田 博 | (オーストラリア) シドニー | 教諭 |
| | 江別市立大麻小 | 教諭 | 小島 雅人 | (スイス) ジュネーブ(補) | 教諭 |
| 後志 | 小樽市立塩谷中 | 教諭 | 佐々木俊朗 | (インドネシア) ジャカルタ | 教諭 |
| | 積丹町立野塚中 | 教諭 | 橋本 直樹 | (マレーシア) クアラ・ルンブール | 教諭 |
| 空知 | 美瑛市立東中 | 教諭 | 吉田 英孝 | (オーストラリア) プラハ | 教諭 |
| 上川 | 当麻町立当麻小 | 教諭 | 清治 信一 | (チリ) サンチャゴ | 教諭 |
| | 旭川市立神楽中 | 教諭 | 柿崎 秀樹 | (ドイツ) フランクフルト | 教諭 |
| 網走 | 網走市立潮見小 | 教諭 | 田中 章子 | (スペイン) ラス・パルマス | 教諭 |
| 十勝 | 帯広市立福田小 | 教諭 | 中岡 信一 | (中国) 香港 | 教諭 |
| | 帯広市立花園小 | 教諭 | 笹木 卓三 | (ペルー) リマ | 教諭 |
| | 豊頃町立茂岩小 | 教諭 | 鎌田 一寿 | (トルコ) イスタンブル | 教諭 |
| 釧路 | 釧路市立緑腰中 | 教諭 | 高尾 稔 | (ミャンマー) ヤンゴン | 教諭 |

『北海道インターナショナルスクールにて』

北海道インターナショナルスクール
教諭 水島 誠 治

1. はじめに

「北海道インターナショナルスクールという学校に行っていただきたいのですが・・・。」

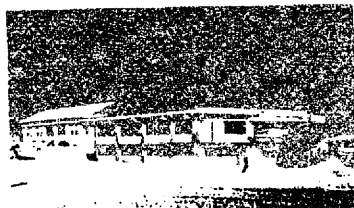
教育委員会から連絡があったのは、今から2年前のことでした。外国の子どもたちに日本語と日本の文化を教える、しかも、自分以外の教師はみな外国人と聞いて、まさに、自分にとって、晴天の碧暦ともいふべきこの事態をどうしたものかと迷いましたが、生来の楽観的な性格からか、断われなかったというか(?)、とにかく、4月からこの学校に務めることになったのです。

この学校の存在自体は、以前に勤務していた八軒西小学校のときに、そこが帰国子女の研究指定校でありましたので、その関係から知ってはいました。しかし、詳細については全くといていほど知らなかったのです。

一昨年(1997)の11月、第10回北海道国際理解教育研究大会のパネルディスカッションで、パネラーとして発表させていただきましたので、そのときに初めて、うちの学校の存在を知られた方もいらしたのではないかと思います。ここで、北海道インターナショナルスクールとはどういう学校なのかということと、その後の私の拙ない実践等について述べさせていただきます。

2. 北海道インターナショナルスクールとは

本校は、札幌の豊平区福住に位置していて、1958年に設立されたと言いますから30年以上の歴史を持っている北海道で唯一の外国人子弟のための学校なのです。(昨年までは東京以北で唯一だったのですが、昨年、仙台にインターナショナルスクールがオープンしました。



現在の校舎は、1962年に建てられたもので、30年近く経っていますから、みかけはそれほどでもないのですが、かなり老朽化しています。

年1回行なわれるアメリカ本国の標準テストでは、生徒の半数以上が上位10%に入っているのです。アメリカの大きな組織(優秀校を認定する組織)の認定を受けています。(子どもたちは、かなり勉強してきます。)

授業は、日本語クラス以外は全て英語で、日常生活も英語で話すことになっています。(日本語を話せる子も、あまり英語が得意でない子の会話力向上のために日本語で話さないというのが、数少ない本校の校則の1つです。)

児童生徒の人数は、1年生から高校3年生まで計41名(2月から、アメリカ人が3名転入してくる予定)で、基本的に各クラス2学年ずつの編成ですから、多くても1クラス10名程の小人数です。この小人数による教育を学校の特徴としているほかに、コンピューターの操作やプログラミングも1年生からすでに行なっています。

国籍は、アメリカ合衆国、イギリス、エルサドルバドル、オーストラリア、カナダ、韓国、ソビエト、台湾、チェコスロバキア、ドイツ、日本、フィリピン、となっています(ハーフの子を含めて)。

教師の国籍と人数は、自分を含めて、アメリカ合衆国5名、カナダ2名、日本1名で、そのうち2名は時間講師です。そのほかに、事務などのスタッフが6名います。

3. 『日本語を教える』から『日本語を通して学ばせる』へ

始めのころ、私は、一生懸命に『日本語』を教えようとしていました。しかし、生活上必要とする留学生などに教えるのとは異なり、1～2年で自国へ戻る子などの、日本語を学習する必要感のない子にとっては、日本語の難しさばかりが感じられる授業だったように思います（もちろん、日本で生活経験、それぞれの言語能力に応じてプログラムは組んでいたのですが）。

そこで、頭を切り替えて、次のように考えて指導することにしました。『長い間の歴史と風土に培われてきたその国の文化を知るための媒介として言語を習得させる』



1週間のプログラム

- ・月曜日 読書、ドキュメントなどのビデオ
- ・火曜日 毛筆、作文、詩、俳句
- ・水曜日 生活、地理、問題解決学習
- ・木曜日 語、漢字、読解
- ・金曜日 総合、会話、歴史

上記のように基本的な1週間のプログラムを設定し、学年や、個々のレベルに応じて学習に変化を持たせています。

また、先生の人数の関係などから、昨年度は、美術の先生はいたのですが音楽の先生はおらず、音楽の授業がされていませんでしたので、日本語のプログラムに音楽も入れ、スプリングフェスティバルには、ミニコンサートと称して2学年のクラスごとに合奏の発表をしました。（下の幼稚園から楽器を借りてこなければならぬほど楽器の種類は少なく、かなり上の学年でも音楽的な知識が少ない子もいて、編成に苦労しました。）

今年度は、音楽の先生が来て美術の先生が出ましたので、その領域を補おうと、切り絵や紙クラフトを日本文化と合わせながら取り入れています。

けん玉の検定なども行なっているのですが、子どもたちは実に熱心に取り組んでいます。

私は、日本語の他に、中学・高校生の体育の授業も指導していて、現在は、昨年度札幌市からスノーホッケーの用具を寄贈していただきましたので、その大会に出ようと練習しています。人数が少ないので男女一緒に体育の授業であり、個人種目の技術レベルはかなり上げていけるのですが、集団種目では、『楽しむスポーツ』といった現状です。（子どもたちは、放課後の遊びでは、卓球やバドミントン、テニスといった種目を好んで行なっています。）

4. おわりに

アメリカからの援助と、札幌市、北海道からの援助はあるものの、あとは、授業料等で賄わなければならない、おまけに校舎はいたんできて維持費もかかるなど、経済的な問題をはじめ課題を多く抱えています。他校や他地域との交流を通して本校が国際理解や国際化の一翼を担えたらと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

ブカレストの空の下で

ルーマニア・ブカレスト日本人学校 伊藤 永

この地、ブカレスト日本人学校に赴任し、一年になろうとしています。その間、大きな地震、反イリエスク大統領派対炭鉱労働者との力による衝突等色々な体験をしました。また、アメリカとイラクの戦争を、ドイツからの日本語放送のラジオに耳を傾け、その動きを追いかけています。

このような毎日の中、日本では気づかなかったことが、日本を離れて暮し、外から日本を見る事によって、日本での自分自身の生活をも含めて見詰め直すことができるようになりました。

日本は、全てにおいてルーマニアよりも優れているように、私自身初めは考えていました。日本こそ一番いい国と考えていました。確かに、ルーマニアは今、物不足です。物を求めての長い行列を ブカレスト市内でもよく目にします。冬なのに、アパートのスチームが入らず、台所のガスレンジに火をつけて部屋の暖を確保しているルーマニア人の家庭も数多くあります。しかし、これらは、仕方のないことなのです。国に物が無いのです。あったとしても流通の途中でどこかに消えてしまうのです。こんな一面だけを見て判断するのであればもうこの国に対する信頼感は生まれてこないでしょう。

日本は物は確かに豊かです。野菜、果物を取り上げてみても、いつでもそれらは手に入ります。そして、その種類は年中豊富です。しかし、ルーマニアでは、その季節にしか、その野菜、果物が食べられません。でも、どれもがとても新鮮でとてもおいしいのです。季節感にあふれているからでしょうか。ひとつひとつを味わい、残さずに食べてしまいます。日本での私自身の休日の過ごし方はパチンコに行ったり、ゴロゴロしたりしてばかりでした。今の私の休日はブカレスト郊外の農家に行き、昨日まで庭を走り回っていたであろうニワトリや、自家製のワインを囲み、片言のルーマニア語で、ルーマニア人のおじいちゃん、おばあちゃんたちと語り合い、のんびりとした時間を外で過ごすというものです。少しも退屈ではないのです。日本では、何かしていなくては申し訳ないような気になっていたのに、ここでは、食事にたっぷり時間をかけ、会話を楽しめるようになってきました。勿論、テレビなど必要ありません。

ここルーマニアでは、お金では買えない、しかも、今の日本では、なかなか

搜し出せない何かはまだ数多くあります。私のような立場の者は、自然な心で物事を受け入れ必要があるのではと考えます。異なる物を受け入れる時に強くそれを感じます。受け入れてからでも答えを出す事は十分にできるのです。この点をこの国から強く教えられました。

そんな事をここ、アカレストの空の下で ぼんやりと考えています。

(伊藤先生…石狩管内新篠津小学校)

E Kaasan (こんにちは～ヨルバ語)

ナイジェリア ラゴス日本人学校教諭

光成 英二

アフリカ中部ナイジェリアのラゴスは熱帯雨林特有の気候で気温は一年中30度前後、湿度は80～100%となっています。雨季と乾季に分れていますが、特に雨の多い時期やサハラ砂漠の砂が上空を覆うハマターンの時には、多少涼しいと感じることもあります。

この国は、ヨルバ族、ハウサ族、イボ族その他の多民族から成り立ち、固有の言語を持っています。さらに、キリスト教とイスラム教が主として勢力を二分し、結果として国のまとまりに欠けることになっています。政治の実権がイスラム教系ハウサ族によって握られているため、インフレや失業による貧富の差の増大とともに他の部族にとっては、不満なところですが。今年の4月(1990)にもクーデター未遂事件があり、路上での流血騒ぎの際に、流れ弾が飛び込んだ日本人家庭もありました。そこで私達日本人は常に衛生面は勿論セキュリティ面にも気を配って生活をしています。

このような地ですから日本人学校の児童生徒も減少傾向にあって、現在、小中合わせて11名です。大変少ない人数なので個別指導も十分にできる環境なのですが、電話の不通、停電、断水、バスや発電機の故障、修理業者との対応等で思うようにいかないのが教師の共通の悩みとなっています。しかし、まわりの人々の工夫と努力によって、こどもたちは伸び伸びと成長しています。低学年から中学生までが、一緒に遊んでいるとても家庭的な学校です。今は、12月2日の学習発表会に向けて、グランドの仮設ステージ(体育館がないため)毎日のように練習に励んでいます。また、一月には運動会が予定されています。

[1990年12月20日 日本着]

(光成先生…網走管内北見市立高栄小学校)

学校通信
平成3年1月9日
特集第4号



ジッパ日本人学校

—平成3年1月5日現在の児童生徒数—

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | | 1 | | 1 | | 1 | | | | |
| 女 | 1 | 1 | | | | | | | | |
| 計 | 1 | 2 | | 1 | | 1 | | | | 5 |

明けまして おめでとうございます



年内には、湾岸危機も解決するのではと期待していたのですが、残念ながら未解決のまま新年を迎えました。

学校は12月20日、4名の先生方が帰任し学校本来の活気がでてきました。さらに12月16日ごろからピザ更新のために、橋本真介・茂野直人・矢嶋哲世・中山雄介・倉田浩亮・矢嶋英二君・茂野直里・高藤麻理子・中山さやか・茂野麻美さん・高藤雄吾君たちが一時帰任し、それに長嶺誠香君・水口琴美さんを加えて計13名になり、久しぶり校舎内に明るい声が響きました。しかし更新終了とともに、ジッパに未練を残しながら11名の友だちは再び日本に帰っていきました。

ところがそれと入れ違いのように、高橋さん家族が帰任しました。高橋さんもピザ更新後帰国されるか、そのまゝジッパに残るか大変迷われたようですが、宏暢君の「ジッパ日本人学校で卒業したい」という強い希望に、御両親も残留を決意されたとのことです。1月5日の通称「Kデー」が近づく中、和平への動きが活発化する反面、武力衝突の危険性も高いという噂(情報)もあり予断を許しません。学校では学習の最大限の保証を目標に、心を一ツにしていこうと思っています。

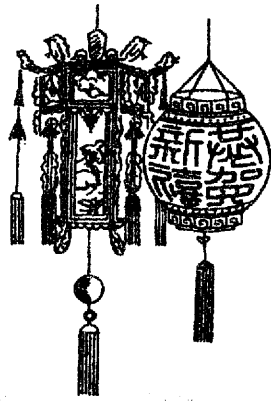
3学期 始業式

1月5日、予定通り第3学期の始業式を行いました。児童5名という淋しい式ではありましたが、新しい年を迎え、又自分たちが今おかれている現情の厳しさも反映し引き締ったものでした。一人ひとり抱負を発表してくれましたので紹介しましょう。

- *^(0.1)高橋 美希君さん……クローリングがじょうずになりたい。さんすうをがんばりたい。
- *^(0.2)長嶺 誠香君……お手伝いをする。寝て本を見ない。予習・復習にがんばりたい。
- *^(0.2)水口 琴美さん……算数・国語をがんばりたい。早く友だちが帰ってきてほしい。
- *^(0.4)高橋 希陽君……算数・国語をがんばりたい。水泳
- *^(0.6)高橋 宏暢君……最上級生として、みんなをまとめていきたい。

6日から授業が始まりました。マンツーマンによる個人即した学習が行われています。

(藤本 伸治校長～松前町立清部小学校)



新禧恭賀

新年好

昨年中は大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。新年を迎え皆様いかがお過ごしでしょうか。

高雄での生活も早いもので九ヶ月になりました。今でも新鮮な日々の連続です。

とても忙しい毎日ですが、明るく素直な子供達と親切な台湾の人々の中で、元気に過ごしています。

高雄市は、台湾第二の大都市で人口百四十万人。人も車も大変多く、街は活気と熱気にあふれています。

気温は、四月下旬より30度をこし最高37度を経験しました。

その暑さも九月に入ると信じられないほど涼しくなり、南国の秋が大好きになりました。同時に気持ちの方にも少しずつ余裕が出てきたように感じています。

三年間という限られた期間ですが、出会いを大切にし子供達のために頑張りたいと思っています。

今後ともよろしくお願致します。

皆様のご健康とご多幸を心からお祈りしております。

平成三年 元旦

柳原愛子

中華民國台灣省高雄市苓雅區和平一路一四九一五號9F-1B

☎ 07 (751) 0124

(柳原 愛子先生～北見市立相内中学校)

『第一回 石狩管内国際理解教育研究会』開催

1. テーマ 「身近な国際理解教育」
2. 期日 平成3年2月21日(木)
3. 会場 広島町立西部小学校
4. 日程&内容

| | | |
|--------------|-------|--------------|
| 13:30 ~14:15 | 授業公開 | |
| | 小学3年生 | 社会科 「町の記念碑」 |
| | 授業者 | 西部小学校教諭 板垣 修 |

14:30 ~15:15 全体会、事後研究
・授業の話し合い
・国際理解教育の動向

15:20 ~16:30 講演
「アラビアンナイトのくらしと子どもたち」
講師 大麻小学校教諭 桜田 和雄
(元 ケート日本人学校教諭)

16:30 閉会

5. 主催

石狩管内国際理解教育研究協議会 (会長 恵み野中学校長 藤川 正吾)

6. 後援

石狩管内教育研究会 広島町教育研究会

事務局だより

今年度、最後の会報『NO17号』をお届けいたします。

1. ありがとうございます。

年4回発行の定時発行のお約束は守れましたが、内容や構成等々改善点がたくさんありました。自戒しております。

今年度は海外からの会員のご寄稿が多く、彩りを添えていただきました。海外に派遣中の会員への働きかけは、1989年度から行っております。これは、派遣中は、会より一度も音沙汰がなく、寂しい思いをした会員の経験を生かし派遣前に呼びかけをしております。

2. 会費の納入をお願いいたします。

前回、未納会員へ督促いたしました。今回は各支部への働きを合せて行っております。よろしくをお願いいたします。